

別記第2号様式（第3条関係）

## 視察概要書

1 視察日時 令和4年11月7日 14時30分～16時00分

2 視察先 石川県野々市市議会  
(住所：石川県野々市  
市三納1丁目1番地)



3 調査事項 まち・ひと・仕事創生への取組みについて

4 視察先概要

(1) 挨拶 野々市市議会 議長 中村 義彦 氏

(2) 説明者 野々市市役所 総務部企画財政課  
企画担当課長 木戸口 浩士 氏

総務部企画財政課  
課長補佐兼企画係長 窪 直樹 氏

- (3) 視察先概要：石川県野々市市  
ア 人口：54,094 人（令和4年10月末日現在）  
イ 面積：13.56 km<sup>2</sup>



視察の様子

- 5 調査項目：
- (1) 概要について
    - ・経緯、具体的な取り組み、成果等について
  - (2) 現在の状況について
    - ・企業、創業支援について
    - ・土地区画整理事業について
  - (3) 今後の課題等について
- 6 視察の目的：人口が減少し続けている本市が人口増加の施策を検討していくに当たり、過去10年間人口が増加し続けている石川県野々市市の様々な取組を調査・研究するもの。
- 7 施策等の概要：野々市市には大学が2校あるが、卒業後は県外の企業に就職し、外に出ていく傾向にあることから、ののいち総合戦略では仕事を創ることを定めており、若者や女性の起業家や創業希望者に対し、事業を軌道に乗せるまでに必要となる様々な人的・技術的・経済的支援を行うと記載されている。  
具体的には、1例としてSDGs関連の事業を行うベンチャー企業と金沢工業大学、野々市市で産学官連携でSDGsを進めている。

また、野々市市は、昭和40年代から土地区画整理事業による宅地の整備が行われた結果、人口が増加し、大規模小売店舗が進出して生活利便度が向上した。この生活利便度の向上を受け、さらに人口が増加するという好循環が生み出されている。

## 8 質疑応答

**Q 1. 野々市市には大学が2校ある。若者が社会に出ていろいろな貢献すれば、まちにとって何らかの形で恩恵が発生すると思うが、卒業された学生さんとまちとの関わりで特徴的なものはあるか。**

A 1. 関係人口という言葉があり、野々市市では分かりやすく野々市ファンと呼んでいる。野々市市に関わりのある人、卒業しても野々市市を応援してくれる人を増やそうとしている。北陸新幹線が開通して、金沢おでんや金沢カレーが非常に有名だが、野々市市が金沢カレー（チャンピオンカレー）発祥の地であり、ふるさと納税の返礼品としてカレーのレトルトが1番人気となっている。そのため、卒業生OBがふるさと納税の返礼品にカレーを申し込むような流れを増やしていきたいと思っている。

**Q 2. 東洋経済「都市データパック」の「住みよさランキング」で2020年と2021年の2年連続で、野々市市が全国総合評価1位となっているが、その理由は何だと考察されるか。**

A 2. 住みよさランキングには4つのカテゴリーとして安心度、利便度、快適度、富裕度があり、野々市市は利便度のランキングが特に高くなっている。その要因としては、人口当たりの大規模小売店面積、及び人口当たりの小売業年間販売額がともに全国1位になっている。昭和40年代から進められてきた土地区画整理事業で宅地整備により人口が増え、それにより小売店が進出し、更に利便度が向上して人口が増加する。この好循環による利便度の高さが大きい要因だと考える。

**Q 3. 住みよさランキングで1位となったあと、転入者が増加したなどの影響はあったか。**

A 3. 転入時に転入理由を伺っていないため、転入要因を把握できていないことから正確なお答えはできないが、結果としてランキングは人口増加に繋がっているというイメージでいる。

#### Q4. 今後の課題等について。

A4. 「高齢化の進行に備えたハード、ソフトの環境整備」「地域への誇り、愛着、関係人口の繋がり創り」「文教都市としてのブランド化と発信力の強化」「活力維持の向上、いわゆる起業・創業支援」が課題である。特に起業・創業支援については、野々市市は面積は小さく、土地価格は金沢市の次に高いことから大きな工場を誘致することは困難である。そのため、市内の大学（金沢工業大学）は特に工業面、技術面で全国的にも注目されていることから、知的産業、IT産業、デジタル系産業などの起業支援が課題になると考えている。

### 9 考察

#### ア 現状や事業効果

野々市市は女性平均寿命が全国5位であり、若者が多く若いまちというイメージがあるが、高齢者も生き生きと元気に活躍するまちである。

野々市市の人口ピラミッドは特徴的であり、特に20歳代前半の男性が突出して多く、逆に20歳代後半が減少している構造となっている。これは、金沢工業大学の学生が在学中は野々市市で過ごし、卒業と同時に、県外へ人口が流出している状況ためである。この対策として、石川県内の就職率を高める取組を野々市市だけでなく、石川県全体でいろいろな就職率を高める施策が行われている。

野々市市では、第2期野々市市総合戦略で取り込まれることとなり、具体的な戦略として「仕事をつくる野々市らしい産業の創出」が掲げられており、起業、創業支援の推進が重要であると考えられている。

人材の確保と育成として、若者や女性の起業家や創業者に対し、事業を軌道に乗せるまでに必要となる人的、技術的、経済的支援を行っており、1例として企業へのSDGsコンテンツの展開、連携によるSDGsビジネスの促進、ゲーミフィケーションなどの事業を主な事業とする金沢工業大学の学生が設立したベンチャー企業と金沢工業大学、野々市市が産学官の連携を行い、SDGsの取組が進められている。

この企業は、「にぎわいの里のいち カミーノ（公民館機能と市民活動センター、商業施設などを合わせ持つ複合施設）」のコワーキングスペースで活動を行っている。

野々市市はこの企業にSDGs連携協定に基づく取組としてSDGsアクションプランをテーマとしたパンフレットの作成を業務委託し、取組を進めている。この企業が町内外にインパクトを与えるような活動をし、実績を挙げることで、野々市市はチャレンジできるまちというイメージが若者や学生

にも浸透し、第2、第3のこのようなベンチャー企業が誕生して、野々市らしい産業の投資が拡大していくことが期待されている。

また、野々市市は昭和40年代から土地区画整理事業による宅地の整備を行っており、宅地の造成、道路・公園の整備、大規模小売店の誘致に取り組んできた結果、人口が増加し、それにより大規模小売店が進出し、生活利便度が向上した。この生活利便度の向上を受け、さらに人口が増加するという好循環が生み出されており、平成23年の市政施行後、人口が増加し続けている。

#### イ 本市に導入できることや検討

近年、中間市においても大規模小売店が多数開店しているが、さらに大規模小売店の誘致を行い、生活利便度の向上を図り、コンパクトシティの魅力を最大限発揮し、転入者増を目指すべきと考える。

また、大学や企業と産官学の連携を行い、知的産業、IT産業などの起業支援を行い、産業の創出・雇用の創出を図るとともに、起業後の支援まで産官学が連携して行うことで、継続して売上促進に繋がり、新たな事業創出に繋がると考える。

#### ウ 本市に導入した場合の課題

野々市市と面積がほぼ同程度のため、大きな工場や大学の誘致のための土地を確保することは困難である。

そのため、本市には大きな敷地を要しない産業の創出が適すると考える。

産官学の連携による起業支援を行うに当たり、連携を行う対象者を探すとともに、活動拠点を確保することが当面の課題となる。

小売店や飲食業などの企業支援は、本市において、現在、「夢まるしえ」で行っているが、IT産業等への支援が薄いため、実店舗での起業以外の様々な業種に対応できる支援策が必要と考える。